

トルコ ボアジチ大学 留学報告書

静岡県立大学

国際関係学部 国際関係学科 4年

行動コース

2016年9月から約10か月の間、トルコ、ボアジチ大学にて留学生として過ごした。この10か月の月日は私の大学生活、人生において忘れられない思い出であり、貴重な経験となっている。トルコで生きることは毎日が冒険のようで、本当にいろいろなことを体験したと思う。

まず初めに、ボアジチ大学での授業についてお話をしたい。ボアジチ大学での授業はすべて英語で行われており、学生は英語が話せて当たり前であった。そんな中に混じってともに授業を受けることは刺激的であった。私は社会学の授業とトルコ語の授業を履修した。社会学の授業は、留学当初は先生の言っていることが理解できないことが多くて苦労していた。英語の文献をひたすらがむしゃらに読む毎日が続いた。毎日気の遠くなるような量の文献を必死に読むことを続けていくうちに、授業の内容も頭に入ってくるようになった。授業に参加するにあたって準備をしっかりとする大切さを感じた。思い出深い授業に難民に関する授業がある。その授業ではショートレポートの提出があり、先生が毎回丁寧に採点し、コメントをして返却してくれた。秋学期が始まったばかりで、授業に参加すること自体に緊張していて、慣れていなかったときに、私の表情がこわばっていたのか、授業が終わったあとに先生が私のところまで来て、「だいじょうぶ？ 授業についてきている？ わからなそうな顔をしていたから心配していたよ。」と話しかけてきてくれたのだ。本当に驚いたし、一気に緊張が和らいだ。そして、その先生は何回か同じように授業の終わりに私を気遣って話しかけてくれることが何度かあった。そして、リーディングに対してのアドバイスもしてくれた。

トルコ語の授業は、欧米からの留学生たちと一緒に受けた。少人数での会話が中心の授業で、日常生活で大変役に立った。日本にいるとき、

トルコ語は挨拶を知っている程度だったが、大学の授業を受けて、トルコ人と友人になることにより、たちまち上達していった。トルコ国内を旅行したときは、トルコ語でコミュニケーションをとらなければならなかったが、授業や友達のおかげで、ある程度の日常会話は話せるようになり、旅行中も現地の人々と沢山会話することができた。

次に、トルコでの日常生活についてお話したい。トルコに留学したというと、親戚や友人みんなからとても心配された。情勢を考えると心配されて無理もないが、私が生活の中心となっていた大学付近では特に危険を感じるようなこともなく穏やかな雰囲気であった。食事は基本的に学校の食堂で済ませた。食堂は毎日3食提供しており、1食1.5リラ

(50円くらい)と本当に安い。金銭面では春学期よりトルコ政府のメブラナ奨学金をいただくことができ、生活費は大分抑えることができた。このようなプログラムを設けていただけたことに感謝している。

秋学期は学校に提供していただいた学生寮で生活をし、春学期はシェアハウスに引っ越した。そのシェアハウスで起こったことだが、温水が出ないことがあった。寮で生活していた時は、自家発電のような装置があるらしく、そんなことありえなかったが、シェアハウスではお湯が出ない日が3日以上も続いたことがあった。その後も時々同じことが起こって本当に困った。その時初めて水でシャワーを浴びた。日本にいと普段有り得ないことだが、それが普通だという世界で生活するのは新鮮だったし、いい思い出である。

もう一つ驚いたことがある。トルコ人は本当にフレンドリーなことだ。ラマザンの時期にトルコ国内を一人で旅行した。日没後、少し田舎の街中を歩いていると、屋外で食事をするトルコ人の横を通った。その

時、「君も一緒に食べよう！早くおいで」と声をかけてくれて、その場で雑談しながら、夕食をごちそうしてくれたのだ。1人旅をしたことで、トルコ人の優しさとフレンドリーさを感じた。運が悪く、その日のバスはすべて満席で無いと言われて途方にくれていたときも、見知らぬおじさんが私のためにカウンターに向かい、空席は本当に無いのか？と聞いてまわってくれた。結果、見つかり、無事に乗ることができた。トルコ人の心の温かさに助けられたことが本当に沢山あった。

トルコでの留学を振り返ると、本当にあっという間だった。この留学を通じて、色々な人と出会い、色々な経験ができた。授業については、内容がすべて理解できたわけでは無くて、悔しいことや、情けなさを感じたことも多々あった。ボアジチで受けた授業から、社会学の知識もちろん得ることはできたが、同時に、がむしゃらに目の前にあることを、とりあえずやってみることの大切さを学んだ。自分にとってハードルが高いものであっても、毎日コツコツとやれば、結果はちゃんとついてくることも学んだ。今までの後回しにしがちで、締め切り間近によく課題を打ち込んでいた自分に喝を入れたい。そして、日常生活でも本当に大切なことを学んだ。言語や文化が違って、お互いを理解し合い、違いを受け入れてコミュニケーションをとろうと努力することで、たとえ、思うように自分の気持ちを伝えられなくても、心は通じることはできることを学んだ。基本的に受け身で過ごしてきたが、トルコでは、自分から友達を作るために勇気を出して積極的に行動した。最初は英語もトルコ語も本当に思うように話せなくて、言いたいことが全然言えず、涙を流したこともあったが、今となっては良い思い出である。成長するためには、いつまでも受け身で待っていないで、自分から踏み出

すことが大切なのだと感じた。トルコで出会った友人たち、つらかったこと、悔しかったこと、嬉しかったこと、感じたものすべてが、私の人生の糧となるだろう。佐藤先生を始めとし、資金面でサポートしていただいた後援会の方々、留学をサポートしてくれたすべての方々に心から感謝している。ボアジチ大学に留学できて本当に良かった。有難うございました。